

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		消防車両器具維持管理事業		担当課
				交通防災課
総合計画	政策	安全・安心に暮らせるまち		計画期間
	施策	消防・救急の充実		種別
	基本事業	消防体制の強化		市民協働
予算科目コード		01-090102-03 単独	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
消防団が迅速かつ効率的な活動を行うため、消防車両及び消防用可搬ポンプ等の維持管理を実施している。	消防車両等の点検・整備を実施し、災害時における消防活動を迅速に行う。 2箇月に1回、各分団ごとに車両と機械器具等の点検を実施する。今年度は、7台の消防車両の車検を実施する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
消防団保有の消防車両及び消防機械器具の維持管理を行い、災害時の緊急出動に備える。	
（参考）基本事業の目指す姿	
火災現場への迅速な出動や消火が行える体制を目指す。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
1分団の消防車両を更新したことで、修理の回数が軽減された。また、消防団員自らが点検整備を行うことで、消防車両や機械器具の故障を未然に防ぐことができた。	昨年度、消防車両を更新したことで、今年度の修理回数の軽減につなげることができた。また災害時の緊急出動に備え、効率的な消防活動が行えるよう今年度においても、引き続き消防車両や機械器具の点検整備を消防団員自らが実施した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
消防車両台数（台）	16.00	15.00	15.00	15.00	15.00
消防車両の点検整備回数（回）	96.00	90.00	90.00	90.00	90.00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	災害時の緊急出動に備え迅速に現場に到着し活動できるよう、消防車両や機械器具等について、2箇月に1回の点検を実施し適切な維持管理に努めており成果は向上している。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
■ 拡大 □ 縮小 ■ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	消防車両の更新は15年が理想だが、車両の品質向上等により十分使用できることから、使用期間を20年とし、更新期間の長期化を図る。 また、今後の車両更新時は、地域性を見据えながら、水槽付ポンプ車・ポンプ車・可搬ポンプ積載車の選定・検討を行う。			

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	3,544	18,852	2,305	2,179	2,305
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	1,860	0	0	0	0
	一般財源	1,684	18,852	2,305	2,179	2,305
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	80.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	328	0	0
トータルコスト		3,544	18,852	2,633	2,179	2,305

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		消防施設整備事業		担当課	交通防災課
総合計画	政策	安全・安心に暮らせるまち		計画期間	年度～
	施策	消防・救急の充実		種別	法定＋任意
	基本事業	消防体制の強化		市民協働	
予算科目コード		01-090103-01 単独	根拠法令・条例等	消防法	

なぜ、この事業を実施しているのか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
消防施設の充実と火災発生時の速やかな消火活動を行うため、消火栓や消防用具格納箱等の整備・更新を実施している。	消火栓用消防用具格納箱，防火水槽，ＡＥＤ等の整備・更新を行う。 ・消防用具格納箱は，市民からの要望により設置 ・ＡＥＤ機器のパッドは2年，バッテリーは5年，本体は7年毎に更新
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
消防施設の充実により，火災発生時における迅速な消火活動や人命救助のための環境整備が図られる。	
（参考）基本事業の目指す姿	
火災現場への迅速な出動や消火が行える体制を目指す。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
消火栓用消防用具格納箱の一部について、老朽化が進んでいる。また、大部分の格納箱の設置がほぼ同時期であることから、交換対象の格納箱が増加している。	消火栓用消防用具格納箱の点検・調査を消防団と消防署員が連携して実施したことで、設備の不具合の早期発見ができた。また、格納箱を交換する際には、壊れにくい規格のもので更新することで、将来の予算軽減に努めた。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
消火栓消防用具格納箱新設・交換数（箇所）	15.00	17.00	17.00	17.00	17.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
■向上 □横ばい □低下	消火栓用消防用具格納箱やＡＥＤを整備・更新したことで、迅速な消火活動や災害時の防災力及び人命救助等の環境整備が整えられ成果が向上した。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□拡大 □縮小 ■維持	□改善・効率化 □統合 □廃止・終了	災害発生時に迅速な対応ができるよう、引き続き、防火水槽、消火栓用消防用具格納箱及びＡＥＤ等の適切な維持管理と整備を行う。また、防火水槽は私有地にあることが多いことから、年々撤去要望が増えているため、要望者と協議を進めていく。			

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	17,532	22,802	44,241	13,230	3,969
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	4	4	4	4	0
	一般財源	17,528	22,798	44,237	13,226	3,969
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	74.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	303	0	0
トータルコスト		17,532	22,802	44,544	13,230	3,969